

# 対象者に応じて 関心や対応力向上を 図るための工夫と実際

向日市社会福祉協議会（京都府）

認知症地域支援推進員 石松 友樹

平成30年6月6日





# 向日市基礎情報

人口	56,952人	65歳以上人口	15,031人
高齢化率	26.4%	第7期介護保険費	5,471円
要介護認定者数	2,237人	要介護認定率	14.9%
日常生活圏域数	1圏域	包括数	委託：3

認知症地域支援推進員数： 1名（うち委託：1名）

《役割》 認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症医療機関、介護サービス事業者や認知症サポーターなど、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。認知症の人やその家族を支援する事業を実施する。

## 地域の特徴

向日市は、京都盆地の西南部に位置し、市の北部、西部と東部は京都市に、南部は長岡京市に接し、南北4.3km、東西2.0kmにわたる南北に長い市域で、面積7.72km<sup>2</sup>の西日本で最も面積の小さな市です。



# 認知症施策の全体像

早期からの適切な対応、認知症に関する正しい知識と理解に基づく支援を包括的・継続的に実施することが必要なことから、状態に応じて適切な医療（早期診断）・介護サービスにつなげる体制づくりや、認知症初期集中支援チームや認知症地域支援推進員の活用を図り認知症施策を推進します。

# 取組当初の課題

- ◆ 認知症に関する講座等の参加を募っても参加者は高齢者（自分が認知症にならないために話を聞きたい）や、いつものメンバーや領域が多く、若い世代の関心が低かった。（考えるきっかけが少なかった）

⇒啓発

- ◆ 老若男女すべての人たちが認知症に関心を持ち、地域で支え合えるやさしい町を目指して、子ども達の力に着目する。考えるきっかけがあれば協力してくれるはず。

⇒啓発・対応力向上

- ◆ 様々な事業を様々な事業所が行ってはいるが、つながっておらず、単発イベントで終わっていた。

⇒ネットワーク構築

- ◆ 様々な関係者や地域住民等と顔の見える関係でなかったため、個々のケースに問題（例えば：行方不明時や主治医がいない、受診拒否など）の際の検討や動きに時間がかかった。どこの誰に相談すればよいのか分らなかった。

⇒相談体制構築

# 具体的な取り組み例

対象	内容	連携機関	分類
① 小・中学生とその保護者	授業参観でのサポーター講座	学校教育課 小・中学校 キャラバンメイト 民生児童委員	◎啓発 ◎対応力向上
② A団地住民	声かけ訓練	向日台連合自治会・地区社協 中学校 民生児童委員 オレンジロードつなげ隊 キャラバンメイト 小規模多機能 特養 介護者の会 保健所 警察署 社協	◎ネットワーク構築 ◎啓発 ◎対応力向上
③ 介護者	家族交流会	医師会 認知症サポート医 認知症カフェ 包括CM連絡会 保健所 喫茶店 介護者の会	◎相談体制構築 ◎啓発 ◎対応力向上
④ 関心のない住民	プロ野球選手と認知症を考えよう	著名人 イベント業者 キャラバンメイト 地域の野球チーム 小・中学校	◎啓発
⑤ コンビニ・ケアマネ・ヘルパー	企業と専門職が連携してできること	乳酸菌飲料会社 コンビニ ケアマネジャー ヘルパー 包括 社協	◎ネットワーク構築 ◎対応力向上 ◎相談体制構築
⑥ 介護事業所職員	対応力向上研修	ヘルパー連絡会 CM連絡会 各事業所 キャラバンメイト	◎対応力向上
⑦ サロンの世話人	「メンバーが認知症になったら...」	サロンの代表者 社協	◎対応力向上 ◎啓発
⑧ 祭りに参加する住民	〇×クイズ・アンケート	キャラバンメイト 保健所 ボランティア 包括 社協	◎啓発
⑨ 警察・消防	連携できる機会の設定	向日町警察署 向日消防署	◎ネットワーク構築 ◎対応力向上 ◎相談体制構築
⑩ 市民	図書館での特設コーナー	図書館 教育委員会 認知症疾患医療センター	◎啓発

# ① 小・中学生とその保護者に 「近所のおじいちゃんが困っているのを発見したら・・・」



## 感想文(一例)

### 【子ども達】

困っている人を見つけたら知らんぷりしないで声をかけたり、お母さんに相談します。

### 【保護者】

困っている人のために子ども達が一生懸命考えているので、親としても知らんぷりするわけにはいきません。

ポイント  
ポイント



授業参観  
親子一緒に考える

## ② 町内会・自治会・集合マンションに 「ご近所の人迷っているところを発見したら・・・」



- ポイント ① まずは町内会単位の小地域から
- ポイント ② 町内会のキーパーソンは誰か
- ポイント ③ 近隣の地域密着型事業所とは密な連携を



### ③ 喫茶店での家族交流会



地域の喫茶店を貸し切り、家族交流会を実施。  
アドバイザーには認知症サポート医や介護者の会に依頼。

→後、この喫茶店で認知症カフェが月2回定期開催されることに。

ポイント  
ポイント  
ポイント  
ポイント  
ポイント

介護者が自発的・継続的に集まれそうな場を  
参加しやすい雰囲気作り  
認知症サポート医も一緒に  
介護者の会も一緒に

## ④ 認知症にあまり関心がない人に 「プロ野球選手と認知症について考えませんか」



ポイント  
ポイント



著名人をゲストに考えるきっかけ  
地域の関心ごとに目を向けて

## ⑤ 企業と専門職の連携会議



訪問サービスを行うコンビニや企業とケアマネジャー、ヘルパーなどの福祉専門職が「よりきめ細かい見守り」について顔を合わせて検討する場を設定。

利用者にとっては企業も専門職も関係なし  
コンビニや企業とも顔の見える関係に  
コンビニや企業も是非ケアプランに

## ⑥ 介護事業所に 対応力向上研修



自分自身の支援方法  
をかえりみる機会に



ポイント   
ポイント 

自分が支援を受ける側だったら  
認知症になっても今まで通り...

## ⑦ サロンの世話人に

「もしサロンのメンバーが認知症になったら・・・」



認知症になった  
→サロン無理？介護保  
険サービスにすべて移  
行？



ポイント  
ポイント  
ポイント

自分自身のこととして捉えてもらう  
今後は生活支援コーディネーターと一緒に

# ⑧ 地域行事等に参加する住民に 啓発アンケート・認知症〇×クイズ

## ★子ども

- ・にもつをもつ。
- ・たすける。
- ・いっしょにあるく。
- ・大人けいさつにれんらくする。
- ・まいごですかときいてみる。
- ・おうちまでおくってあげる！

町で困っている人を見かけたらどうしますか？

## ★大人

- ・まず声をかけて話をします。名前や住所がわからない様子なら、交番と一緒にいきます。
- ・近所の人に知らせる。
- ・お話をして仲良くなって家までお連れしたいと思います。
- ・手をつなぎ 好きな物なんですか？花を見て散歩しましょう。
- ・その方の安全が確認できる状況になるまでしっかりサポートします。
- ・手をつないで目的の場所くらいは案内できると思います
- ・いつかは自分もその日がくるであろう。声をかけ合って助け合いたい。
- ・はじめは見守って困られているなあと思ったらやさしく声をかけたいです。
- ・まずあいさつします。

463人の  
やさしいご意見

住民が多く集うイベントと連携し、幅広い世代の住民対象に認知症に関するアンケートや〇×クイズを実施し、合わせて認知症啓発タオルを配布。



ポイント  
ポイント

人が多く集まる地域の行事  
楽しく参加できる工夫

## ⑨ 警察・消防が

### 連携できる機会の設定

警察署のキャラバンメイト  
が消防署の認知症サポーター講師を務める。



① 推進員が警察署での講師



② 消防署での講座の企画



③ 警察に「消防署での講座をするので一緒に行きましょうよ。」



④ 消防署にて警察官と推進員  
が一緒に講座



**警察と消防がつながる**

ポイント  
ポイント  
ポイント



つながる必要がある機関はどこなのか  
推進員はつなぎ役

## ⑩ 図書館での認知症特設コーナーの設置

- ・本を通じて新たな気づきを得るきっかけに
- ・もう一工夫！

特設コーナー設置に合わせて、認知症疾患医療センター医師が講師で講座も開催。特設コーナーと合わせて調整したことで図書館研修室も利用可能に。

図書館

新しい特設コーナー  
ができた

市民

わかりやすい  
理解が深まる

認知症疾患医療  
センター

市民に啓発する機会  
ができた

ポイント  
ポイント



取り組みはより多くの関係機関と一緒に  
WIN WINの関係を意識して



# 工夫したこと

- 市民目線で、楽しく参加しやすい内容、時間、場所を設定する
- 対象者の設定を明確にする
- 対象者が集まる場所に出向く
- 福祉だけの視点にならないように気を付ける
- 地域の行事にはできるだけ短時間でも顔を出す
- お誘いがあれば断らない
- 多少無理をしてでもお願い事は引き受ける
- 自分にはない人脈は上司や仲間の協力を得る
- お土産も忘れずに

お土産の啓発タオル



# 取組を通して課題と 感じていること・気が付いたこと

① イベントで終わらせないこと

② 「直接（一人で）」より『推進（みんなで）』

③ 地域オリジナルの『味付け』をすること

④ 取組が個別支援につながること

# ①イベントで終わらせないこと

例えば・・・高校生対象 認知症サポーター養成講座の調整

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

**次の事業や関わる人達、アイデアを頭に入れて打ち合わせに臨む!**

打合せ『講座後、何か一緒にできそうな……』

高齢者に手紙を書こう!



高校生から民生委員に

①イベントで終わらせないこと  
一例をより具体的に

中学校での認知症サポーター養成講座  
から  
声かけ訓練の流れ

## ★5月26日 学校との打ち合わせ



学校の先生としっかり事前打ち合わせを行うことが重要！  
無理は言いすぎないように意識…

## ★7月5日 認知症サポーター養成講座

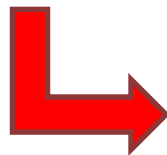


## ★7月14日 カードワークの勉強



## ★9月22日 認知症サポーターとしてできることを検討

**地域に出かけて認知症の啓発  
活動をしよう!!**



推進員の事業（声かけ訓練）  
に位置付ける



## ★10月6日 地域に出かけて調査活動1



調査活動1  
公民館・コミセン2か所  
地区社会福祉協議会・民生児童委  
員のみなさんと



## ★10月20日 地域に出かけて調査活動2



調査活動2  
グループホーム・デイサービスの  
利用者や職員にインタビュー



## ★10月25日 地域の方を招いて調査活動3



調査活動3  
コンビニ・不動産会社・ボラン  
ティアから活動報告と意見交換



## ★10月27日 調査活動の振り返り・啓発チラシの検討





# ★11月10日 啓発活動の振り返り



中学生A君「実際に声をかけたことがある人は訓練でも臨機応変な対応ができており、未経験の人との差があった。だからこのような活動は大切だと感じた。」

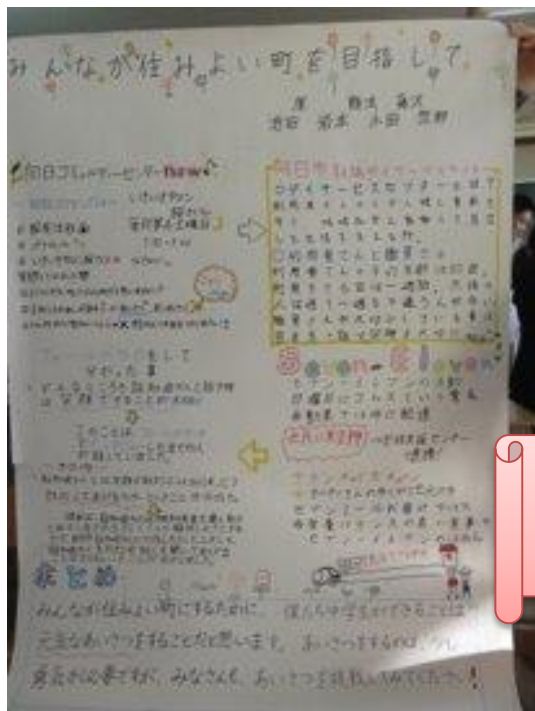
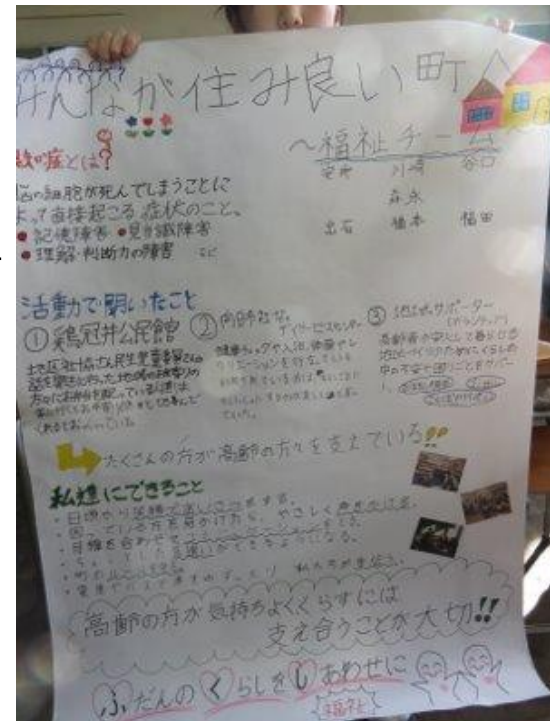
# ★11月15日 振り返り内容をポスターにまとめる



みんなが住みよい町とは！

# ★12月6日 ポスター発表

学校開放にて地域の皆さんへ



また来年もしましょう(^)/





## ②「直接(一人で)」より「推進(みんなで)」

例えば・・・認知症声かけ訓練の実施に向けた調整

- 町内会、自治会との調整と打合せは誰がする？
- 学校には？
- ボランティアには？
- 介護事業所には？
- 警察には？
- 民生児童委員には？
- 当日の進行は誰がする？
- 場所の調整は？
- 道路使用許可の申請は？
- 認知症役の調整は？
- 案内文はどこに誰が送る？
- チラシの作成は？
- 行事保険は？
- 振り返りは？
- 必要備品は？
- 企画書は？
- その他・・・

**一人でしない**

## ★一人ですると

- アイデアが乏しい
- 従事者の意識が高まらない
- 規模が小さくなる
- 担当者が代わればわからない
- イベントで終わってしまい継続的な取り組みになりにくい
- 一人の力や時間には限界がある

## ★みんなで協力すると

- たくさんの新しいアイデアや視点が生まれる
- 従事者の意識も高まり継続的なネットワークにつながる
- 規模を大きくすることが可能になる
- 担当者が代わっても引継ぎがスムーズ
- PDCAサイクルで事業化できる
- 推進員自身を含めた専門職スキルの底上げになる

最初はみんなで協力するほうが大変かもしれない……

でも、「それでは市民のためにはならない。自己満足で終わる可能性が高い。」と、最近ようやく気が付きました。

# ③地域オリジナルの「味付け」をする

矢巾町わんわんパトロール隊から学んだこと NO.1

矢巾町の「料理」をそのままマネしても  
向日市民の舌には合わない可能性がある



矢巾町の料理を参考に  
地域オリジナルの「味付け」を考える  
※できる限り地域の素材を使う



それぞれの地域が望む「料理」に近づく

# ③地域オリジナルの「味付け」をする

## 矢巾町わんわんパトロール隊から学んだこと NO. 2

矢巾町のわんわんパトロール隊いいな～  
近隣によく似た組織がないか調べてみよう

警察が事務局ですすでにわんわんパトロール隊があることが発覚！

防犯が主目的のようだ。認知症等高齢者の見守りもできないものか。

警察とわんわん隊員代表と打合せ

**Win win!!**

「警察としてもわんわんパトロール隊の充実と見直しを考えていたのでありがたい。」

「他に警察さんとしてしなければならないこと、例えば消費者被害についての啓発など、あればその時に一緒にしていただいてもよいのではないのでしょうか。開催時期も合わせます。」

「隊員も少ないので新規隊員募集も含めたイベントをしましょう。また10月には安全週間の期間で警察もイベントをする予定なのでそこに合わせてもいいかも。消費者被害の啓発も生活安全課としても多くの市民に啓発できるいいチャンス。」

「隊員代表からは、これ以上隊員さんに何かお願いするのは難しい・・・」

事務局は今までとおり警察とし運営方法も変更しない。  
今までの防犯に加え、認知症高齢者を意識して散歩することから始めよう！  
まずは、全市民対象に「わんちゃんイベント」を企画し、その中で認知症サポーターの内容とわんわんパトロール隊の紹介をしよう！

**とっていましたが実現せず。。。  
先方との温度差... 見抜けなかった...反省...**

## ④ 取組が個別支援につながること

### 一例をご紹介します

- けがをして困っている高齢者を中学生が発見。  
↓
- 中学生が高齢者に声をかけ、薬局に協力依頼。  
↓
- 薬局の店員が現場にかけつけ、処置。自宅まで送る。

この地域は声かけ訓練を行った地域でした！（薬局も中学生も参加していました）

こんな場面をイメージしてこれからも取り組みたいと思います。

# 個別相談の推進員の立ち位置(例)

～包括と相談のすみ分けをするために～

## 1. 相談項目を設ける

- ・地域での見守り支援に関すること
- ・カフェに関すること
- ・家族支援に関すること
- ・医療受診に関すること

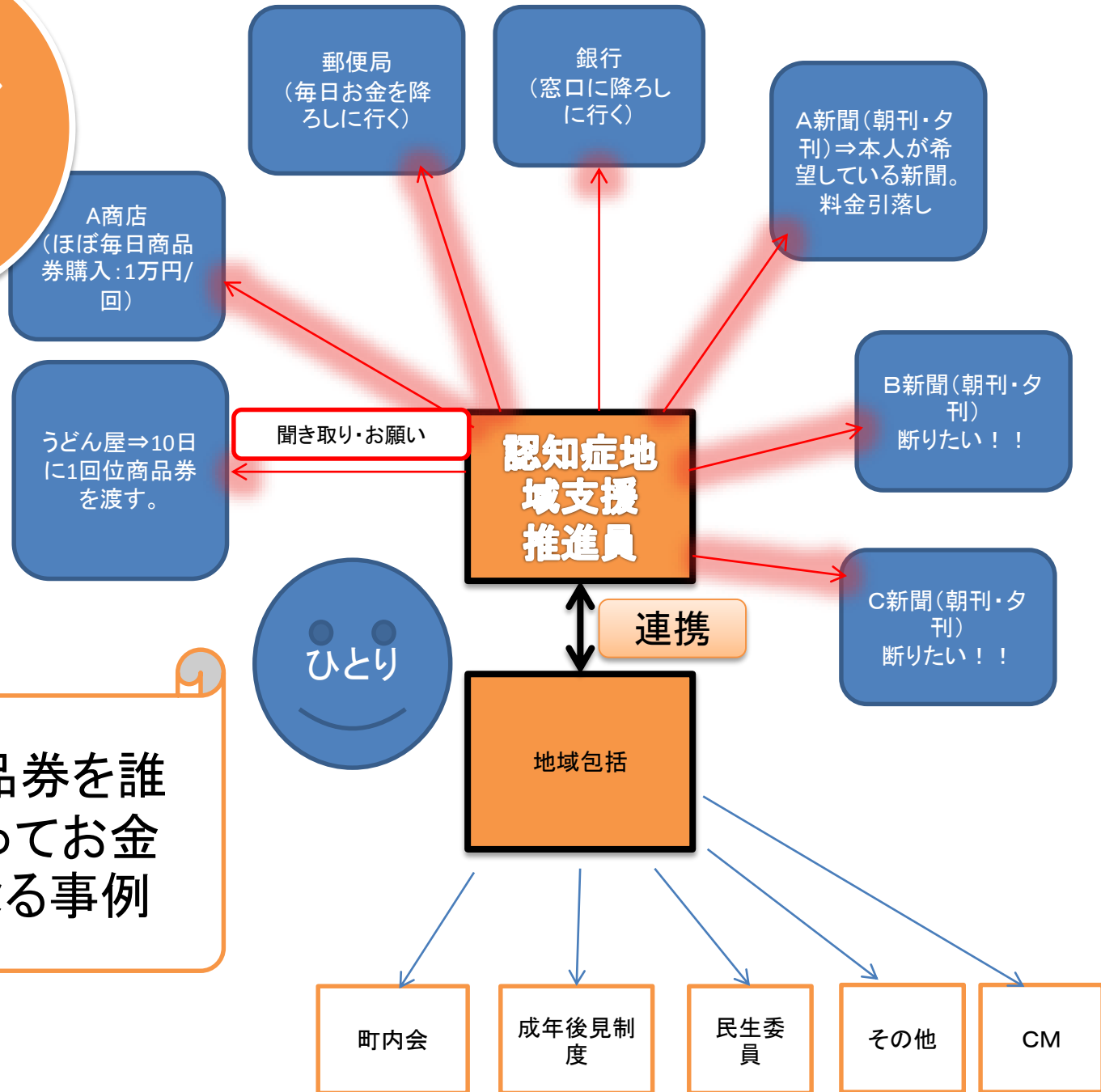
## 2. 相談経路を専門職からとする

- ・包括やケアマネ等から相談を受け付ける(包括との連携がカギ)

※ 推進員の個別相談に関する業務の明確化を図るために上記のように案を作りました。

『地域支援推進』を重点的に取り組むことができるように。

推進員はインフォーマル機関に認知症の理解と協力依頼



毎日商品券を誰かに配ってお金がなくなる事例

# 成果と今後について

- ・住民や関係者の意識の変化から、個別ケースにおいて、協力していただける機関や人が増えてきた。(啓発・支援体制構築・対応力向上)
- ・顔の見える関係の人や機関の領域の幅とつながりが広がってきた。(ネットワーク構築)

今後も、「だれのための取組か」を忘れず取り組んでいきたいと思えます。



# 最後に

◎推進員の活動は見えにくいものが多いため、活動内容（特に**プロセス**の部分）をどのように**見える化**（**記録**）していくかが大切だと感じています。

そうすることで推進員の活動（役割）が見えてくると思います。

◎推進員ひとりで全てできません。

自分ができる範囲のことに**優先順位**を付けて、少しずつ継続して取り組んでいけばいいと思います。

◎協力してくれる仲間は探せば必ずいるはず。

**市民のために！！**  
**推進員自身のためにも！**





**ご清聴ありがとうございました。**